

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.36

2017年1月14日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
 本部 〒701-1213 岡山市北区西幸川 895-7
 レジデンスアロー 101
 TEL&FAX 086-284-9700
 E-mail:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



平均台の模擬授業 (プノンペン市の中学校)



佐藤教授 (桐蔭横浜大学) を招聘してワークショップ開催



タイからスプラニー教授を招聘して「Physical Literacy: 身体識字」の模擬授業



ペタンクの模擬授業 (スヴァイリエン州の中学校)

カンボジア王国中学校体育科教育支援事業

平成 28 年度戦略的 二国間スポーツ国際貢献事業 (スポーツ・フォー・トゥモロー)

「中学校体育科教育 学習指導要領完成」

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

本事業は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を開催する2020年までに開発途上国を始めとする100カ国以上・1000万人以上を対象に、日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業を進めていく Sport For Tomorrow 事業の一環として実施しており、「2016年12月までにカンボジアの中学校体育科教育の学習指導要領を教育・青年・スポーツ省として認定すること」を目標に、活動を実施してきました。

本年6月までに、リズム運動、器械体操、陸上、サッカー、バレーボール、バスケットボール、体力測定、空手、テコンドー、クメール・ボクシング、ボカタオ (カンボジア伝統



新学習指導要領の表紙。各種目から「態度・知識・技能・協働性」が学べるデザイン

武道)、卓球、水泳、ペタンクの計14種目のドラフトができ、7月以降、執筆を担当する技術委員会を対象とした6回のワークショップ、3回



中学校学習指導要領の認定式

のプノンペン市、バタンバン州、スヴァイリエン州のモデル校の教員を対象としたワークショップを通して、7領域 (体力向上、リズム運動、伝統スポーツ、陸上、器械体操、水泳、ボールゲーム)、20種目 (レクリエーション、体力テスト、クメール体操、エアロビクス、創作ダンス、ボカタオ、ペタンク、走、跳、投、マット運動、鉄棒、平均台、水指導、クロール、平泳ぎ、サッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球) に整理され、最終稿が完成しました。

この期間の執筆支援にあたっては、専門家として、筑波大学の岡出美則教授、三田部勇准教授、山口拓

助教、桐蔭横浜大学の佐藤豊教授、タイのスリナカリンウィロット大学のスプラニー・クワンブーンチャン准教授に協力頂き、ユネスコの「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」や「良質の体育に関する政策策定者のためのガイドライン」等に沿った学習指導要領が完成しました。

12月21日に中学校学習指導要領の認定式が盛大に開催され、来年以降はこの学習指導要領が実際に中学校で使用されるように、JICA 草の根技術協力事業にて、ワークショップの開催や教員のための指導書の作成を実施していきます。

カンボジア王国体育科教育支援事業

【カンボジア小学校体育科教育 自立的普及に向けた人材育成及び体制構築のための事業（JICA 草の根技術協力事業 パートナー型）】

活動報告(2016年7月～12月):ハート・オブ・ゴールド(以下、HG)はカンボジアの教育・青年・スポーツ省(以下、教育省)と協力して新体育普及活動を実施してきましたが、10年目となる本事業の最後として、15州の対象校の新しい体育の実施状況を評価するために、評価基準表を作成し、3月から第1地域(スヴァイリエン地域)、第2地域(クラチェ地域)、第3地域(シアヌークビル地域)、第4地域(バタンバン地域)、7月上旬には最後となる第5地域のシェムリアップ地域(コンポントム州、プレアピビア州)の拠点校と教員養成学校を対象とした最終評価を実施しました。その結果、全46校中、39校が研究指定校に認定されました。

また、7月20日から22日まで筑波大学岡出教授を講師として招聘し、ナショナル・トレーナーや地域トレーナーのほか、14州の教育局担当官、教員養成学校の校長、教員など合計105名が参加して、カンボジアの子ども達が質の高い体育の授業を受けることができ



岡出教授による最後のコンサルテーションミーティング

るために立場の違う参加者がそれぞれ何をすべきか考えるため、最後のコンサルテーションミーティングを実施しました。

さらに、9月1日、2日の2日間、15州から州、郡の教育局担当官が参加して、「小学校体育の持続的普及のためのまとめ会議」を開催し、それぞれが果たすべき役割を明確にするために課題や解決策について積極的な話し合いが行われました。

10年間にわたる本事業を通じてナショナル、サブナショナル・トレーナーの能力が強化され、彼らが中心となってワークショップやモニタリングが計



シェムリアップ州 Wat Bo 小学校にて6年生おこなわの授業



コンサルテーションミーティングでの地域トレーナー30名の認定書授与

画、実施できるようになってきています。そして教育省も新しい体育の普及の重要性をはっきりと認識し、体力測定や地方でのワークショップを開催するようになり、昨年は教育省の独自予算で体育の指導書(1年生から6年生まで)52,000冊を印刷し、全国の小学校約7,000校等に配布しました。

新しい体育が着実に今後も継続して全国の小学校に広がってゆくのを楽しみます。

小学校体育科教育支援事業とともに歩んだこの10年を振り返って



2006年に現場スタッフとして小学校体育科教育支援の仕事に関わった時、とてもハードルが高く、HGから逃げだしたいと思ったこともありました。自分自身が体育の授業を受けたことがなかったからです。内戦時、私は小～中学生で、体育といえば、軍事訓練かクメール体操をみんなでやるだけでした。たくさんのスポーツ用語にも困りました。例えば、跳び箱、リレー、縄跳び、などカンボジア語にはない言葉が次々と出てきました。しか

ハート・オブ・ゴールド(HG) 東南アジア事務所
プロジェクト・リーダー ケオ・ソचेトラ

し私は、自分は体育の授業を受けることができなかつたけれど、私の子ども達には体育の授業を受けさせたい、私がやらなかつたら、カンボジアの体育が始まらなかつた気がしました。とても大切な仕事だと思ったので、一つ一つ勉強しながら、泣きながら…進めました。教育省の人達の多くも、私と同じく体育を学んだことがありませんでした。そこで、彼らと協力して「カンボジア語体育用語集」を作っていました。

体育科教育事業に携わっている教育省の人達は日本人と一緒に働いたことがなかつたため、日本人の考え方がなかなか理解できませんでした。最初の頃、40代の彼らと20代の私はうまくコミュニケーションが取れず、時間がかかりました。当時、彼らはまだワーキンググループが出来ていなかつたので、そして、この事業が認知されてい

なかつたので、効率も上がりませんでした。でも、6人の教育省の人と私を合わせて7人が担当官として選ばれ、「7人の侍」と呼ばれて、気持ちを一つにして小学校体育教育を普及していきました。

小学校の先生たちは、内戦を経験した人も内戦を経験していない人も、私と同じく、クメール体操をやるだけの体育の授業しか受けたことがなかつたので、なかなか新しい体育が理解できませんでした。特に、女性の先生たちは、私はできないとか、ボールの種類(バスケット、サッカー、バレー)さえわからないと言っていました。今では、子ども達に新しい体育を教えられるようになりました。

やっと、この大変な壁を乗り越えて、今は、HGのスタッフとして誇りをもって仕事を続けています。

※ HGは10月にケオ・ソचेトラさんに永年勤続の表彰(勤続10年)を行いました。

「カンボジア王国小学校体育の普及支援」

プロジェクト・コーディネーター 井上 恭子



実技講習会：岡山とカンボジアの先生が協力して指導



招聘研修：体育授業見学（岡山市立妹尾小学校）



招聘研修：授業見学後に先生達との質疑応答

ハート・オブ・ゴールドが、カンボジア教育・青年・スポーツ省と協働ですすめている同国の小学校体育振興事業を補完するものとして実施。

8月に、シムリアップとプノンペンで、岡山市の教員4名が、新体育を実施している小学校を対象に行いました。1回目（8、9日）のシムリアップは、ワット・ボー、ワット・チョーク、モック・ニャックの3つの小学校と、教員養成校の先生達、州と郡教育局の担当者が参加。2回目（11、12日）のプノンペンでは、4つの州（クラチェ、シアヌーク・ビル、スヴァイリエン、バタンバン）の先生達と各州、郡の教育局担当者に加え、クラチェとシアヌーク・ビルに

派遣されている青年海外協力隊員2名も参加。それぞれ、2日間の日程で、1日目はマット運動、2日目はリズム運動の講習を行いました。岡山市の先生方は、カンボジアの体育指導要領、指導書にも目を通され、それに沿ったプログラムを作成。マット運動では、前転を怖がっていた女性の先生も打ち解けた雰囲気なかでチャレンジするようになり、それを皆で支えたり応援したりする様子も見られ、また、リズム運動では、表現要素も取り入れ、さまざまな動きをグループで行いました。言葉の壁を越え、笑顔いっぱいの講習会となりました。

10月17日～25日の岡山での招聘

研修は、同省学校体育スポーツ局のサブ・ナショナル・トレーナー（サブNT）の強化育成が目的でした。授業内容の調整をはじめ、子ども達とのかわり方など、受け入れの5小学校、大学の万全の準備のおかげで、充実した研修となりました。

また、研修期間中に、活動報告会（10/22）を開催。カンボジアの小学校体育支援の10年間を現地の人たちの視点で振り返り、事業に関わった岡山の先生達も交えて活動の報告をしました。



招聘研修：習字体験（倉敷市立連島東小学校）

カンボジアの復興がカンボジア人によってなされるためには

代表理事 有森裕子

12月21日「カンボジア王国中学校体育科教育学習指導要領認定式」がカンボジア教育・青年・スポーツ省大臣、日本国文部科学副大臣を始め、多くの方のご臨席を頂き執り行われました。その場でカンボジア側から感謝状と勲章の授与がありました。これは、今までHGをご支援くださった多くの協力者や会員の方々への受賞に他なりません。

例えば1996年に「第1回アンコールワット国際ハーフマラソン」に参加し、対地雷の廃絶をアピールし、被がい者をサポートすることから始まりました。2013年にすべての運営をカンボジア側に全面移譲でき、16ヶ国645人だった大会は、2016年21回大会には85ヶ国9150人の参加者にまでなりました。

2001年から「青少年指導者育成スポーツ祭」（マラソンだけでなく、サッ

カーなど、日本のプロスポーツ専門家が現地の先生に教え、教えられた先生が子どもたちを教えるプログラム）が始まり、5年間継続した後に、2006年からカンボジアの小学校で体育の授業が出来るように学校体育スポーツ局の皆さんと活動を始めました。

スポーツを通じた国際協力として、NPO（HG）と筑波大学、国際協力機構（JICA）の3者で初めてのケースとして小学校体育科復興事業をスタートさせ、学習指導要領・指導書の作成、普及と10年間の活動が本年9月に終了しました。この事業は、体育教育を受けたことがないカンボジアの担当官とHGのスタッフにとっては、大変な困難が伴いましたが、国づくりに情熱を燃やす方々との活動は、徐々に心をつなげて広がり深まりを見せ、現在15州の小学校モデル校では子どもたちは新しい体育の授業を受けることができ

ます。

2015年から、スポーツ・フォー・トゥモロー事業として、日本スポーツ振興センター（JSC）の支援で、中学校の体育科教育に取り組み、この度、学習指導要領が認定されました。

カンボジアの復興がカンボジア人によってなされるためには、人材育成が何よりも必要とされます。カンボジアの体育科教育は技能、知識の習得だけではなく、協調性や態度を育成することが目標に掲げられています。カンボジアの児童・生徒の「健やかな体と豊かな心」を育む手伝いができる事を誇りに思います。

最後に、教育は、教えるてると書きますが、私は人間同士「共に育つ共育」こそが最も大切な関係だと思っています。これからも、HGは、会員、協力者のみなさまと共に、学び・育ちつつ活動していきたいと願っています

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

プロジェクト・オフィサー 大澤 一夫

3人の子どもが親元に引き取られてNCCCを卒業していき、今は17名(男子6名、女子11名)の子ども達が暮らしています。7月、学校の終業式では、年間成績上位者として2人が表彰されました。学校の補修授業に参加したり、毎日スタッフが、勉強の指導をした成果が出てきました。

夏休みには、スタディーツアーで訪問された神戸学院大学の学生さん達の企画により、NCCCで初めてのミニ運動会を実施しました。3組に



新学期を前にしたNCCCの子ども達

分かれて色違いのハチマキを頭に巻き、折り返しリレー、2人3脚、大縄跳び、しっぽ取りなどのゲームをしました。まだ縄跳びを跳べない小さな子は、大きい子が手を取って一緒に跳んだりして、子ども達は初めての運動会をととても楽しんでいました。学生さん達が事前準備して上手に運営をしてくれた賜物だと思います。日本のたこ焼とカンボジアのヤシ砂糖のお菓子を一緒に作り、それぞれの国の味をお互いに楽しんだ後、日本の学生がボランティア活動として洗濯を手伝い、カンボジアの子ども達が毎日やっている手洗いの大変さを経験してもらいました。

普段は日本語を学ぶ機会がない中学生のうち2人が、夏休みの間だけBBUの日本語クラスに通いました。昨年まで3年近く日本語を勉強してきた2人はすぐにクラスに追いつき、クメール語の出来ない私のNCCCで



ミニ運動会で大縄跳び

の通訳をしてくれるまでに上達しています。

11月には新学期が始まり、3人が中学校に、1人が高校に進学しました。新しい制服を着て、少し緊張して全体写真に写っています。

12月には、アンコールワットマラソンツアーで訪れたTAO(東洋医学研究会)の先生方の歯科治療を受けました。3年目になるので子供たちも慣れてきたのか、小さな子も少しドキドキしながらも、自分から口を開けていました。歯みがき習慣も定着してきて、昨年に比べてかなり虫歯が少なくなってきました。

HGはこれからも子ども達に寄り添って、彼らの成長を見守っていきます。

BBU 大学 日本語講座

プロジェクト・オフィサー 大澤 一夫

昨年10月にBBU大学(Build Bright University)で開講した日本語講座は、高校生や大学生、社会人を対象に日本語の基礎を教えています。京都民際日本語学校から派遣された日本語教師の渡邊先生に、チェイ小学校のHG日本語教室で小学校の時から日本語を学んできたカン・ナモイさんとコル・ソティアラさんの2人のカンボジア人教師が加わり、合計3名で教えています。

現在は5つのクラスを開講しており、ひらがな・カタカナから学ぶ初心者クラスが2クラス、その上の初級・初中級クラスが3クラスあり、半年ごとに新たなクラスを開講して、日本語を学びたい生徒の要望に応じています。仕事のシフトの変更でクラスに通えなくなる生徒が多かったため、下半期からは、午前と夕方のクラスを同時開講したので、午前と夕方のどちらにも振替ができ

るようになりました。

BBU大学での日本語クラスの位置づけは、学位がとれる日本語学科ではなく、誰でも自由に参加できるオープンクラスです。生徒は、日本語や日本文化に興味がある人や、日本人の友達がいるのもっと日本語が上手になりたい人、仕事で日本語を活かせる観光業で勤める人などです。語学の勉強だけでなく、日本の歌や季節の風物、日本の遊びといった日本文化の紹介も行っています。日本



BBU Aクラス 生徒の皆さん

料理を食べたことのない生徒がほとんどなので、いなり寿司や天ぷらを作ってランチパーティーを何度か開催しました。

これからも、日本語学習と日本文化の紹介を通じて、日本を好きになってくれる生徒をたくさん育てていきたいと考えています。

任期を振り返って

大澤 一夫

3年8ヶ月のカンボジアでの任期を終え、12月末でハート・オブ・ゴールド(HG)を卒業することとなりました。

初年度の図書館建設、2年目の浄水器設置とシェムリアップ美容教室、3年目のBBUシェムリアップ校での日本語教室、そしてNCCCの運営と、毎年新たな事業に挑戦させてもらい、充実した時を過ごすことができました。

明年1月からはタイの民間企業で働く予定ですが、HGでの経験を糧にして、新たな職場でも頑張っ参ります。任期をまっとうできたのは、多くの方々のご支援があったればこそと、感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

アンコールワット国際ハーフマラソン (AWHM) 運営支援と障がい者ランナー支援

第21回大会を迎えた本年は、85の国・地域より9,150人(外国人5,100人、カンボジア人4,050人)が参加しました。

障がい者ランナーは、車いすランナーが17人(うち女性2人)が参加。また、義足ランナーが20人と義手ランナーが8人(うち女性4人)が参加しました。

岡山マラソンに招待した2人の障

がい者ランナーは、10Kで優勝しました。

AWHMとかすみがうらマラソンは姉妹マラソンなので、有森賞として、かすみがうらマラソンに今年も2名のランナーが招待されます。



ハーフの車いすマラソンのスタート地点

<http://www.angkormarathon.org/>

アンコールウォーキング・イベント HG インターン 米山 遥香

毎年12月に行われるハート・オブ・ゴールド(HG)スタディツアーではアンコールウォーキング・イベントを行っています。今年は、ツアー参加者25名、岡山アジア女性交流会20名、ニューチャイルドケアセンター(NCCC)17名、チェイ小学校生徒60名、Build Bright University(BBU)のHG日本語教室の生徒30名、カンボジア障がい者陸上競技連盟(CDAF)シムリアアップメンバー14名、HGスタッフ10名の総勢約180名が参加しました。アンコールワット西参道からスタートし、象のテラスまでの5kmを歩きます。日本語を勉強している子

も達は積極的に日本人に話しかけ、普段の勉強の成果を発揮しようとしていました。またNCCCハートペアレント(里親)の方も毎年何名か参加され、子どもと一緒に歩くことを楽しみにして下さっています。子ども達も笑顔で手を繋ぎながら、とても楽しそうに歩いていました。

ウォーキングの後は象のテラスでレクリエーションを行いました。エアロビクス、じゃんけん列車やおおなわ跳びなどのゲームを行い、子どもと大人の交流をさらに深めることができました。言葉は通じなくても一緒に体を動かすことによって緊張が解け、笑顔でコミュニケーション



エアロビクスを楽しみました

を取れるようになります。

最後に子ども達に参加賞として日本の方々からの支援物資である鉛筆、ノート、歯ブラシ、Tシャツなどを贈呈しました。これからも子ども達にはたくさん勉強をしてもらい、来年また成長した子ども達に会えるのを楽しみにしています。

カンボジア障がい者ランナー招聘事業

プロジェクト・コーディネーター 井上 恭子

本年、第2回目を迎えたおかやまマラソンに、カンボジアから腕に障害を持つ2名のランナーを招聘しました。42.195kmにボン・ホン選手(男性)、4.5kmファンランにスルン・ブンテン選手(女性)。二人はHGが支援しているカンボジア障害者陸上連盟(CDAF)に在籍しており、彼らに国外の大会に参加する機会を提供するため、岡山南ロータリークラブの支援を得て招聘しました。あわせて、カンボジアパラリンピック委員会代表のジー・ヴィスナ氏と、CDAF事務局のチョーン・ピセイ氏も同行。

ホン選手の伴走は太田昌宏氏が務めてくれ、無事完走することができました。ブンテン選手はコースを間



桃太郎クラブでの練習風景(右、ボンホン選手)

違えるなどのトラブルがありました。かなり上位のタイムでゴールしたようです。岡山在住のカンボジアの方達の応援もあり、両選手とも満足そうでした。

岡山滞在中は、おかやまマラソンとその関連イベント、コースチェックをはじめ、同ロータリークラブ例会出席や小学校での出前授業、ランプロ(エイコースポーツ)と桃太



有森代表と一緒に

郎夢クラブの練習会参加、アニモ・ミュージアム(有森裕子記念館)訪問など、さまざまな体験をすることができました。

パラリンピアン岡紀彦氏(車椅子卓球)、松永仁志氏(車椅子陸上)との懇親会では、両氏の経験談やアドバイスなどをいただき、とても有意義な時間を過ごし、カンボジアでの再会を約束していました。

親子チャリティマラソン in おもちゃ王国

9月22日、第6回目の大会を迎えました。スタート直後から雨が降り始め、次第に本格的に降るなか、大人の心配をものともせず、子ども達は元気いっぱいゴールを目指しました。

有森代表もずぶ濡れで、行ったり来たりして応援しながら一緒に走り、全

員完走となりました。リピーターの多い大会で、1年生だった子が大きくなって力強く走っていると声をかけずにはいられません。

本大会からの支援でカンボジアの小学校に設置された鉄棒は、19基になりました。



第10回吹田中の島チャリティ・ラストラン

9月11日(日)、時々晴れ間のみ見えるうす曇りの中、午前10時、いよいよ今回で最後となるレースがスタートしました。多くのリピーターランナーが他の大会にない内容のレースを名残惜しそうに懸命に走っていました。

閉会式では、表彰式に続き、30年の永きに亘りこの大会を運営された伊藤健一さんと松村政子さんに関係者より

花束贈呈を、そして実行委員長の松浦政子さんにHGより感謝状を贈りました。

大会終了後、同公園内で打上げ懇親会を開き、互いに長年の労をねぎらいました。

実行委員会より、ゲストランナー、後援、協賛、協力団体と多くのボランティアの方々に心よりお礼申し上げます。



す。尚、本大会からの支援金は、HGの活動を通して地雷被がい者の支援と東日本支援に充てられます。

第5回富士山マラソン

11月27日(日)、残雪の富士河口湖畔・西湖畔周辺コースは、夜半からの雨も止み、号砲の鳴った朝9時には晴れ間ものぞきました。例年は-5℃以下となる気温は、今年は+3℃という好コンディションの中、海外勢を含め1万4千

人が富士山を背景に絶景リゾートを走り抜けました。

チャリティグッズ販売のHGブースでは、レースを終えた多くの方々にご協力をいただきありがとうございます。



4.14 子ども animo プロジェクト (熊本地震支援)

震災後3ヶ月を迎えても、多くの被災者の方々が、避難生活を余儀なくされていました。協働団体である日本警察消防スポーツ連盟(JPFSS)は、被災者の家から「大切なもの」を取り出す「財産保護活動」を継続(4月~11月に792軒)しました。また、現地から衣類(特に子ども用)の要望が寄せ

られたので、協力を呼び掛けたところ、日本中から約2トンもの衣類が集まり、コンテナで一時保管をした後、益城町20ヶ所を巡回し配付しました。岡山天満屋デパートの子ども靴売り場で集められた靴も保育所に配付し、ひとまず活動を終了しました。皆様のご協力に感謝します。



倒壊家屋の財産保護活動

「スポーツのチカラ ～豊かな社会を実現するために～」

— 岡山南ロータリークラブ創立60周年記念事業 —

12月18日(日)三木記念ホール(岡山市)にて、シンポジウム&クロストークが開催されされました。

シンポジウムは、高岡敦史先生(岡大講師)のコーディネーターのもと、岡山のスポーツ・レジェンドである松永仁志氏(車いす陸上パラ三大会連続出場)・岡紀彦氏(車いす卓球現日本チャンピオン)と、貴田茂氏(岡山南RC60

周年実行委員長)に有森代表をシンポジストとして、岡山市の障がい者スポーツ環境の課題を挙げ、その場で解決策のアイデアを出して進められた。

第2部の、原祐一先生(岡大講師)と有森代表のクロストークは、スポーツが健常者/障がい者を超越、学校や地域を変える可能性を持っていることを、HGのカンボジアでの取り組みから解き



明かした。まちの中にスポーツが広がり、健常者、障がい者の区別なく、スポーツを通して人と人が関わることがまちに活気をもたらすことが、熱く語られた。

信州飯田に、2003年10月10日（東京オリンピック開会式記念日、ハート・オブ・ゴールド設立記念日）、スポーツを通じて特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールドの活動を少しでも支援できればとの思いで、飯伊陸上競技関係の皆さん方の多大なるご協力の元、ハート・オブ・ゴールド飯田クラブを設立しました。その折には、有森裕子ハート・オブ・ゴールド代表のご出席もいただきました。

南信州飯田は、結いの心が生まれ、自然と文化が融合する町で、江戸と京大阪の東西を結ぶ街道の要衝として古くから繁栄してきました。遠州と松本方面をつなぐ南北街道も重要な交通路であり、江戸時代には伊那谷を南北に流れる天竜川は通船で大変賑わったそうです。中央アルプス、南アルプスに囲まれた豊かな四季の美しさにも喜びを感じます。

クラブ設立より早13年が過ぎしこの間にも、有森代表はじめ多くの方々のご来飯をいただきましたこと、心より感謝の気持ちで一杯です。そして、本年12月4日には、「夢と希望」、走ることで地域社会に少しでも協力することができるならば、との思いで、公益財団法人飯田市体育協会が主催する第1回みなみ信州駅伝・ロードレース大会に共催として参加しました。2020年には東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されますが、こうした大会の中から日本を代表する選手が生まれてくればと、大きな夢と希望を抱いているところです。今後とも是非お力添え、心よりお願い申し上げます。

3.11 子ども animo プロジェクト

HG 福島クラブ 会長 本田 直

震災から5年が過ぎ、新しい場所に統合されて新築される小学校があり、そこにJSファウンデーションの支援金を受けて、ソーラー街路灯を設置しました。

① 山下第二小学校

6月29日（水）から7月1日（金）にかけて、宮城県亘理町に建設中の山下第二小学校に福島県の施工業者を伴い設置工事の監督をして来ました。

この学校は、3.11の大震災と大津波で壊滅的な被害を受けたため、現在の敷地に移転・復旧されたものですが、当日は炎天下で、竣工式に向けた外構工事や植栽工事と何回も調整しながら工事を進め、3日間で6基のソーラー街路灯の設置を完了しました。

② 宮野森小学校

11月8日（火）と25日（金）の両日、宮城県東松島市野蒜が丘（仮称）に建設中の宮野森小学校で5基のソーラー街路灯設置工事の



主な活動報告（2016年後半）

- 7/20-22 小学校体育科教育支援事業最終協議会（プノンペン）
- 8/4-17 岡山市教員派遣（CLAIR事業、岡山）
- 8/25 岡山学芸館SGHがNCCC訪問
- 8/27 岡山学芸館SGHがBBUと交流
神戸学院大学がNCCC訪問
- 9/3 HG長岡クラブ総会（新潟）
- 9/6 HG福島クラブ総会・交流会（福島）
- 9/8 曾根小学校出前授業
- 9/9 H28年度国際化フットボールin広島にてCLAIR事例報告（広島）
- 9/11 吹田中之島チャリティ・ラストラン
- 9/21 せとうちライオンズクラブ例会
- 9/22 親子チャリティマラソン in おもちゃ王国（岡山）
- 9/26 倉敷平成ライオンズクラブ例会（岡山）
- 10/17-25 カンボジア教育省担当官小学校体育研修（岡山）
- 10/28 ESD岡山こどもフォーラム
- 10/29 岡山せとうちライオンズクラブ30周年記念式典
- 11/1-3 中学校体育科教育支援事業最終協議会（プノンペン）
- 11/2 政田小学校出前授業
- 11/13 おかやまマラソンにカンボジアから障がい者ランナー招待
（岡山南ロータリークラブ創立60周年記念事業）（岡山）
- 11/27 富士山マラソン
- 12/1-5 HGスタディツアー（シェムリアップ）
- 12/2 アンコールウォーキング（シェムリアップ）
- 12/4 アンコールワット国際ハーフマラソン（シェムリアップ）
- 12/8 岡山学芸館ボール贈呈式（岡山）
- 12/18 岡山南ロータリークラブ創立60周年記念事業・代表講演（岡山）
- 12/20 岡山学芸館高校研修受入（シェムリアップ）
- 12/21 中学校体育学習指導要領認定式（プノンペン）
- 12/23 山陽女子ロードレース（岡山）
- 12/23 小学校運動会支援（バタンバン）

主な活動予定（2017年前半） 変更あり

- 1月 JICA草の根・中学校体育科教育支援事業開始（カンボジア）
岡山学芸館高校カンボジア研修受入（シェムリアップ）
岡山学芸館SGH報告会（シェムリアップ）
筑波大学より青年海外協力隊受入（プノンペン）
- 1/9 宮野森小学校落成式（宮城）
- 1/24 岡山学芸館清秀中学校研修受入（シェムリアップ）
- 3月 カンボジア教育省年次総会にて報告（プノンペン）
- 3/5 篠山ABCマラソン（兵庫）
- 3/26 淀川国際ハーフマラソン（大阪）
HG西日本会員交流会（大阪）
- 4/16 かすみがうらマラソン（茨城・土浦）
HG東日本会員交流会（東京）
- 4/23 百間川ふれあいフェスタ（岡山）
- 5月 アニモ・チャリティバザー（岡山）
- 5/21 みしま西山連峰登山マラソン（新潟・長岡）
- 5/28 Arimori Cupマラソン大会（北海道・穂別）
- 6月 アニモの会（岡山）
HG総会・理事会・会員交流会（岡山）

監督をしました。

3.11の大地震と大津波で旧・野蒜小学校は損壊し、地元の多くの方々が犠牲となられたことから、小学校と住宅が高台移転することになり、特にこの日は寒風が吹きすさぶ中での工事監督でした。

JSファウンデーションは、福島・宮城で数多くのソーラー街路灯設置を支援しており、夜の闇の中、この街路灯が周りを明るく照らしてくれることで人々の元気・やる気を起こしてくれることでしょ。

事務局からのお知らせ

●HG 会員募集！ 活動に賛同して下さる仲間を募集しています。ぜひ友人・知人をお誘いください。

●ボランティア・インターン募集！

本部事務局・カンボジア事務所ではボランティア・インターンを募集しています。関心がある方は、メールか電話でお問い合わせください。

※ HG は認定 NPO 法人ですので、寄付金は、個人・法人を問わずすべて寄付控除が受けられます。相続または遺贈による寄付には相続税が課税されません。

●書き損じはがき・未使用の切手・レターパックなどを集めています。年賀状は、消印がないため両面記入されているものは無効です。

*下記リストにご質問があれば遠慮なく事務局にお問い合わせください。

「第 22 回アンコールワット国際ハーフマラソン '2017」は 12 月 3 日 (日) 開催予定！